

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-142	24-301	慶應義塾大学名誉教授 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Effectiveness of a training program for the management of risky alcohol use in primary care based on motivational interviewing 動機付け面接法に基づく一次医療従事者向け危険な飲酒管理トレーニングプログラムの有効性		
執筆者		
Celia Pérula-Jiménez <sup>1</sup> , Esperanza Romero-Rodríguez <sup>2</sup> , Juan Manuel Parras-Rejano <sup>3</sup> , Ana González de la Rubia <sup>4</sup> , Juan Baleato Gómez <sup>5</sup> , Luis Angel Pérula de Torres <sup>6</sup> ; ALCO-AP20 Collaborative Group (Annex 1)		
掲載誌		
Aten Primaria. 2024 年 4 月;56(4):102835. doi: 10.1016		
キーワード	PMID	
動機付け面接、危険飲酒、プライマリケア、健康アドバイス	38086313	
要 旨		
<p><b>目的：</b>危険な飲酒習慣を持つ患者の管理および動機付け面接に関する知識、態度、技能の向上を目的として開発された、プライマリケア（PC）専門家向け研修プログラムの有効性を評価すること。</p> <p><b>デザイン：</b>多施設共同、2群並行、無作為化、非盲検対照臨床試験。</p> <p><b>設定：</b>アンダルシア保健サービスのプライマリケア。</p> <p><b>参加者：</b>31のPCセンターから80名の医療専門家が研究を完了した。</p> <p><b>介入：</b>実験群と対照群の両方で、危険なアルコール摂取のある患者の管理に関するワークショップと、標準化された患者を用いた2つのビデオ録画された臨床症例の解決が実施された。実験群は動機付け面接に関するワークショップに参加した。</p> <p><b>主要評価項目：</b>危険な飲酒管理に関する知識、当該健康問題を有する患者への臨床的対応、動機付け面接の評価。</p> <p><b>結果：</b>平均年齢は 39.50±13.06 歳（標準偏差、95%信頼区間：36.59-42.41）、71.3%（95%信頼区間：61.1-80.9%）が女性であった。研修プログラム前の知識質問票における両グループの平均スコアは 15.10±4.66 点であったが、研修後は 21.99±3.93 点に上昇した（95% CI: 5.70-7.92; p&lt;0.001）。実験群は、動機付け面接介入前には平均スコア 18.53±13.23 を示したが、介入後には 28.33±11.86 となった（p=0.002）。対照群のスコアには有意な変動は認められなかった。</p> <p><b>結論：</b>危険な飲酒の管理方法に関する知識の向上と動機付け面接におけるコミュニケーションスキルの習得を目的とした、プライマリケア専門職向けの研修プログラムは有効である。</p>		